

早稲田大学人物研究会主催 李小牧氏講演会

平成 22 年 11 月 6 日

李さん：李 人研：人

人：歌舞伎町案内人、李小牧さんです  
拍手

李：今日はいっぱい居ますね

人：たくさんのご来場いただきまことにありがとうございます。

李：ありがとうございます。盛り上がっていきましょう

人：まず李さんのお仕事を教えていただきたいのですが、今のメインのお仕事はどのようなことをされているんですか？

李：そうですね、今のメインの仕事は執筆活動とか、あと湖南菜館(李氏が経営する中華料理店)とね、あとあちこちろろうろ取材して本を書いたりとかね。本当に 23 年間続けていることは歌舞伎町案内人です。

人：歌舞伎町案内人というのはどのようなお仕事なのでしょう？

李：そうですね、謎の中国人がどういうことをするのか、皆さんここが聞きたいでしょう。もちろん歌舞伎町の中を案内するんです。どういう人を相手にするか、日本人じゃなく日本人以外の全ての外国人を案内します。で、どういうところに行くのか。もちろん、レストランも、パチンコも、昔のディスコも、あと特にね、風俗！風俗のお店に行く方が多いです。今は男性だけでなく女性の方も案内します。

人：あの一外国人の方って日本の風俗のシステムになれてませんよね。けっこうトラブルとかもおきやすいと思うんですけど、どういう風に日本の風俗のシステムを説明されているんですか？

李：それは私じゃないです。通訳しながらシステムとかいろんな説明をして、OK だったら財布を自分でチェックして、大丈夫だったらそのお店に行こう、と。もちろん 60 年前の焼け野原の中に作った歌舞伎町は、風俗だけじゃないんです。いろいろなダンスホールとか

もちろんコマ劇場も含めてね。

人：芸能の街ですね

李：そうですね。不夜城といわれてますけど、最近不夜城じゃなくなってきましたね。1時過ぎたらダメだと。

人：やはり歌舞伎町の浄化作戦とかの影響が強いのでしょうか？

李：そうですね。94年の1年間でたまたま4件殺人事件が起こったんですが、全て中国人と関連があったんですよ。そこで育った作家さん、馳星周さん、『不夜城』の小説を書いて金城武主演で、その映画が日本や東南アジアですごく有名になって、そこから歌舞伎町案内人が売れるようになったんですよ。

人：馳星周さんの小説が東南アジアで読まれているんですか？

李：そうですね。小説じゃなく、映画が特に東南アジアで有名になっていて、私はそれを追いかけて、おかげさまで自分の本も出て、6年前に『歌舞伎町案内人』の中国版が出ます。それでインターネットで、3年半ぐらいかな、自分でも宣伝していますね。自分も歌舞伎町の宣伝をするんです。最近歌舞伎町にいらっしゃる外国人は特に中国人がすごく多いですね。外歩いている人間の5分の1ぐらい中国人の団体です。1番街のあたりには観光バスが一日多いときは30-40台、少なくとも10台くらいはありますね。

人：すごいですね。6月でしたか、ビザが緩和されましたが、それがお仕事に影響を与えていますか？

李：うーん、そうですね。すごく景気はいいです。みんな言葉しゃべれないんで、みんなびくびくしながらけど好奇心はあって、何とか見たりとかするんだけど、写真だけでも取りたいっていう人もいます。

人：李さんの本の中に歌舞伎町の写真を撮るのが好きで、とり続ける人がいるという話がありました。

李：権徹さんね。権徹さんは在日韓国人で、彼はカメラが好きで歌舞伎町の町でずっと写真を取っていたんですね。自分は文章だけしか書けないから2人コンビを組んで、『歌舞伎町事変』という本を出したんです。96年から2006年間までの事件をまとめた本で、おと

としの12月30日にドキュメンタリーがNHKで放映されました。

人：なるほど。日本でお仕事を始めるきっかけになったことを教えていただけますか？

李：まずは自己紹介してもいいですか。今から23年前、1988年2月26日、シンセンから香港経由で日本にやってきました。なぜかという、ファッションが勉強したかったのです。ファッションデザイナーになりたかった。日本に行くかアメリカに行くかと思ったとき、私は東洋人で肌の色も体系も同じだし、アジアのコレクションは東京しかなかった。それに同じ漢字を使っているから、言葉をしゃべらなくてもなんとなく分かるだろうなと普通に考えて日本に来ました。

人：実際漢字があれば意味は伝わりましたか？

李：もちろん！日本では難しい繁体字、中国では簡体字を使います。でも意味は大体同じだから繁体字も分かります。だから日本にきたら生活しやすいだろうと思ってきたんです。

人：実際のところどうだったんでしょう？

李：実際に成田空港からリムジンバスで西新宿に到着して、迎えに来た女性は「はじめてきたからとりあえず今日は安ホテルに泊まろう」というのでシンセンから来た男二人がスーツケース引っ張って歌舞伎町一番外を通過して、百人町にいったんです。

人：そこからもう歌舞伎町に・・・

李：そう、ついた当日に。それで後ろの(百人町の)ホテルに泊まって、一週間後にバイトがあつて、そのホテルで掃除のバイトが始まったんですよ。3ヶ月ぐらいバイトしたところで、「一時間600円は安いなあ」とかね、とても生活できない。学費、生活費、家賃、持ってきたのは50万なんだけど、不動産に15万、学費にという感じでもうゼロ。そのあと大変で、奥さんも来るし、どうしようかなと思ってたら、そのあとにティッシュ配りが始まったんですよ。お見合いパブの！

人：お見合いパブってどういうお店なんですか？

李：お見合いパブはね、女性は入ってもお金取らないけど、男性が入るとお金払って、座って番号札を渡して、OKだったら個室で三十分話す。三十分たつてOKだったら外に出る。後は、食事とかコーヒーとか・・・あとはもう私は知りませんが？そういうシステムが

ありまして、私はそこの入り口でティッシュ配ってたんです。建ってたあのビルは皆さんご存じないかもしれませんが、2001年9月1日、ちょうど日本の防災の日ですね、深夜一時、火災で44人が亡くなった事件の現場なんです。それで、何時間後かの朝になって、小泉首相がコメントしてたんです。「これから防災に参加する人はいますか」って。

一同（笑）

李：いや、ほんと歌舞伎町に来ればよかったんだけどね(笑)まあそういうことがあって、私はあそこでティッシュを配ってたんですよ。3ヶ月ぐらい経つと、外国人が一番街通りにガンガン来るんですけど、当時中国人は少ないんですよ。香港、台湾、シンガポールが多くて、まあ中国人とか韓国人とかもいて、とにかく外国人が多くて、みんなどこにいくかわかりません。そこで私が、一時間1000円でティッシュを配っているのは前のラブホテルよりも時給がいいんだけど、指差して「あそこにストリップショーがある」といえば、1000円くれるんですよ。チップとして。「ああ、この仕事は儲かるな」と思って、ティッシュ配りを辞め、独立して、歌舞伎町案内人になったんですよ。

人：なるほど。原型はティッシュ配りだったんですね。

李：そうそう。で、お店に連れて行ったら、お店側からバックチャージもらうんですよ。だから例えば5000円の入場料で1000円くれるんですよ。一組5人なら5000円くれるってことです。これ、1時間も掛かりません。だから、独立して、歌舞伎町案内人をやりました。ストリップショー、キャバクラとか、あと色々な風俗のお店ね、ここではちょっと言えないようなところも。もちろんレストランやパチンコ店も案内しました。で、チップとかもらったりしたけど、当時すごいバブルでね。日本もよかったし、アジア全体もよくてね。くれるチップを「間違ったかな」と思ったのが1万円札で、「これ1000円じゃなくて1万円ですよ」といっても「いいのいいの」といって分かってて1万円くれるの。

人：日本人も払いっぱいよかったですね。

李：よかったよかった。丁度88年に日本に来たから、89年になってもうぐるっと変わったね。

人：一番アツい時代ですよ。でも、ある意味日本でずっと不景気になっちゃって、案内人の仕事も難しくないですか。

李：いや、逆です。

人：逆ですか。

李：逆です。あのね不景気のなかではねやっぱりチャンスはあるんですよ。みんな不景気だからみんなではできないことも逆に一人ではやりやすいですね。ずっと続けていけばね。ずっと続けていけば、この23年間不景気だけど私はそんなに不景気を感じないです。もちろんそんなに儲かってないですよ。でもね、23年間続けているからこそ、この歌舞伎町にいる中国人が目立つわけです。当時は中国人がくるんだけど、政府の幹部とか、スポーツ選手とか、有名人の俳優とかたくさんくるんだけど、歌舞伎町は通り過ぎていく。顔をみたらわかるんだけど、どこでも「いない」。ただ雰囲気だけであんまりお金も使わない。もちろんちょろりちょろりと使う人はいるけど。あぶないことには手を出さない。

人：やっぱり気おされちゃうというか・・・

李：そうですね。共産党員だと帰ったらみんなクビだから。まあ実際にアメリカでストリップショーみた共産党員2人は帰ったらクビ。まあ知ってる方もいるし、でも少ないので、やっぱり90年代になって、95、6年くらいから少しずつ資産家とか、会社の偉い人とか、共産党員以外の人がね、ちゃんと来れるようになった。「会社でいこう」とか、「半分は仕事、半分は旅行」みたいだね。そんな人たちも少しずつ増えて、特に2005、6年からは中国人の観光客の団体ツアーのビザが刊行されたので、人がバーンときて、今年になって、6月くらいに、どうしてだかまたもっと増えたんですよ。ちょっと最近は尖閣諸島の問題があつてか、90パーセントくらいは減っています。いや先月の私は泣いてましたよ。悲しくて。全然ね、遊びに来ないし。「なんでかなあ」と。バスの台数も減っていますし。

人：やっぱり海外でお仕事されている方って大きな政府の問題だとか経済の問題だとかに翻弄される度合いが大きいですよ

李：そうですね。で、だって、尖閣諸島の問題があるから私はもう(聞き取り不可)向こうは怖いからそういう目にあっているんですよ。

人：中国とか、つまりは母国の家族や友人に「日本で仕事をしている」というのはやはり抵抗があるものですか？

李：もちろんあります。特に歌舞伎町で働いたらいえないですよ。当時まだお父さんが生きていたとき、国際電話でお父さんと話すと、私はガイドやってますっていいいます。案内人ではなくガイド。普通のツアーガイドだとおもてるの。東京タワー行ったりして、そんな感じでちゃんとやってますから大丈夫ですよ、って。そのあと2004年に香港のテレビ局で「フェニックス」という番組で私のドキュメンタリーが中国で放送されたんで

すよ。それをお姉ちゃんが見てて、そんなことやってんの?! って。

人：それはばれてなかったんですね。

李：言えなかったから！説明しても理解できないもん。それでなんだこの風俗の街はってボコボコにされてね、鼻が曲がったり、警察が来たりして、お姉ちゃんなんか2日間泣いてましたよ。でも今はね、堂々といえます。だって合法のお店ね、歌舞伎町にあれば普通に案内します。だって別に私の下に女の子はべらせて何十人とかいて、携帯であっちに行って、あっちに行ってとかをやってるわけじゃないですから。お客さんを合法のお店に案内するだけですから。あとは私関係ありませんよね。パチンコ屋さんと一緒にじゃない？法律は隙間があるからね。ギャンブルはダメ、でもよそに出て換金するのは出来るじゃない。私はそういうつもりじゃないけど、実際そういう風に廻っているんですよ。

人：ある意味では日本は紹介しやすいのかもしれないですね。

李：紹介しやすいし、生活しやすい、遊びやすい。やっぱり民主主義の国ですから。だから日本大好きです。特に歌舞伎町がね。

人：でも気になったんですがシャンハイ、ペキン、シンセンなどの都市では歌舞伎町みたいなところが出来てるような気がするんですが。

李：もちろん、大都市だけじゃなく、どこの都市でもあります。ただ歌舞伎町のような規模ではない。あちこちにあります。ホテルの地下とか、普通のビルの一室とかも。

人：カジノなんかは・・・？

李：歌舞伎町に裏カジノはないと思いますが、最近ではネットでやっていますね。

人：例えば中国の繁華街ですとか、日本の薄野ですとか、色々繁華街はあると思うのですが、歌舞伎町はここは違うぞ、というところはありますか？

李：そうですね。歌舞伎町はちゃんと町として出来ていて、皆さん今度チェックしてみてくださいね。歌舞伎町に入ったらどこの入り口から入っても「まっすぐいけない」んですよ。まっすぐいけない、ということは車が通らないことを最初から考えて作られている。歩行者が動きやすい、遊びやすい、よく出来てると思いますね。こういうのは全世界で日本だけだと思います。4本の道を囲んで、あんな小さいスペースで09年の正式申請の時

点で4500店舗あるんですよ。保健所に登録していないみせももっとある。平日だと1日30万人、週末だと50万人のお客さんが居ます。外国人も、地方から来た方も飲みにくる。捕捉しますと、昭和60年代まで歌舞伎町は学生の町だったんですよ。もちろん早稲田、慶応、パレードもやりますし。そんなイベントもあったし、本当にディスコも多かったんですよ。昭和60年過ぎてから、完全に大人の町になったような気がしますね。

人：どうしてそんな風になっていったんでしょう。

李：たぶん都庁のおかげじゃないのかな。

人：都庁?!石原さんですか？

李：あの新都庁作ったから、あそこの界限の人たちが飲みにくる。そうして大人の町になっていったんじゃないでしょうか。新都心に新しいビルもいっぱい建ちましたから。大人が増えて学生が消えて行って・・・いいんですよ、みんな大人になるんですから。でもやっぱりとことんまで大人の町になったら、歌舞伎町の終了だと思います。外国人観光客も歌舞伎町を大人の町だと思ってきますからね。ほかに渋谷や原宿もありますから。

あとは石原慎太郎知事とちょっと喧嘩したことがあります。まあ直接じゃないんですが、ニューズウィークの記事上でね。李小牧とは言っていないんですが、『ニューズウィークの最後の記事を書いている、歌舞伎町案内人だか言う本を出した変な中国人キャッチ』みたいなそういうことを言っていたんですよ。だから私はニューズウィークで返事したんです。私は何も悪いことはやっていません、と。本当の歌舞伎町の事情を知りたいのならうちの湖南菜館に来てください、直接教えますから、と。そのあと返ってこないんですけどね。ずっと待っているんですけど。もちろん彼がやってること、きれいなことももちろんあります。ある筋の方、排除しようと。それは私も賛成です。犯罪にならないように摘発する。これも賛成します。だけど警察の力は摘発だけじゃなく、もっと管理すれば、もっと合法の店に許可が下りれば、もっと繁盛すると思います。

人：浄化作戦とかは、実際李さんはきれいな歌舞伎町っていうのは賛成だというスタンスですよ。

李：もちろんそうです。ただ、あんまり決めすぎるのもダメです。水清ければ魚住まず、と。歌舞伎町は独特の文化圏ですから。

人：今日は学生さんよりは大人の方が多いですけども、学生にお勧めする歌舞伎町のポイントなどがあれば教えていただきたいのですが。

李：歌舞伎町はね、昔から若者が入れる町になっていて、ディスコもあって、もちろんライブハウスもあって、酒を飲んで騒いだりも出来る。後はね、コマ劇前の広場で最近毎日のように無料でイベントをやっているんですよ。

人：もう少し歌舞伎町のことをお聞きしてもよろしいですか。

李：60年前は歌舞伎町にはなにもありませんでした。そこには中国のかた、韓国人のかた、もちろん日本のかたも入って行って町を作ったんです。今は職安通りは完全にコリアンタウンになっている。あそこの不動産は五割以上が韓国人の所有になってます。

(OHPによる雑誌の紹介が入る)

李：これは新華社の中国共産党の雑誌です。この雑誌は、中国で初めて日本の大人の街を紹介したもので、私すごくうれしく思いましたね。タイトルはこれです、「東京灰色地帯(簡体字で)」なんて書いてありますね。結構中国人観光客もきているので、主なテーマは3つ。一つは、歌舞伎町の昔と今の現状。二つ目は老華僑の問題(中国が改革・開放政策にカジを切った70年代後半以降、海外に出た中国人を新華僑と呼ぶ。それ以前から国外で活動する中国人やその子孫は老華僑と呼ばれる。)このヒューマックスビル、李ビルとか歌舞伎町会館、これらのビルは老華僑が持っているビルです。老華僑は60年前から、国民党時代の政府の方たちが、ブントとか民間とかで残った方々のことを言います。あと台湾系のひとたちが入ってきたりして、歌舞伎町の土地を買ってダンスホールを作ったりとか。今でも3分の一の歌舞伎町の不動産は中国人が持っています。我々新世代は新華僑。鄧小平の開放政策以降、30年前以降に日本に来た人は新華僑といます。老華僑と新華僑と歌舞伎町の現状これが共産党の雑誌で紹介されたんです。これは7月1日に出たものです。

(2冊目の雑誌に以降)

李：この雑誌を見てください。皆さんこれあまりみたことがないと思いますが、これ『BAN』、交番の番ね、29万人の警官のための、警官しか見れない雑誌です。ここに風俗が書かれていますね。北海道の薄野、大阪のミナミ、福岡だと中州。この4つの風俗の街の特集で私が取材を受けましたね。3年ぐらい前に在日中国人の犯罪に関して私が記事を書きました。

人：李さんのところに中国人がらみの犯罪があると警察の方から問い合わせがあるとお聞きしましたが。

李：そうです。一枚の写真を見せましょう

(李さんと恰幅のいい男性のツーショット写真)



李：中国の当時の残留孤児ね、本名は出せないけど、ダイウェイさん(仮名)ね。去年の10月にこの人と朝日新聞の在日中国人特集の取材を受けたときに北京で取った写真です。当時彼と私は実は敵だったんですよ。

人：敵？！

李：彼が私を誘拐しようとして警察に守ってもらったんですが、そのあとに友達になります。だから今は普通に会えるんですよ。その当時私を守ってくれた警察官の写真お見せします。今週(11月初週)週刊文春に出てる写真お見せしますね。

(3冊目の資料に移行)

李：私が撮ったんじゃないよ、私が撮ったんじゃないけど、週刊文春で、今週！今週号にでてる写真ですが、この方です。私をずっと守ってきたマナカ刑事。彼は10数年間国際課にいて、捜査に行って・・・これ以上はいえませんが。記事を読めば分かるかもしれませんが。この写真皆さんにみせたかったので了解を取りにいったんですよ。そしたら本名をださなければいいですよ、って。

人：なんだか話聞いていると、危ない橋渡ってるなあって気がするんですけども。ほかにこれまで歌舞伎町で身の危険を感じた事件はありますか？

李：同胞から誘拐されて3時間ぐらい監禁されたんですが、当時財布に彼の名刺が入っていたんですね。だから殺されはしなかったですが、お金とか物とかを取られてね。それが一回目。2回目のときに私が監禁されたのは、日本のその筋の人たちにね。16時間ぐらい監禁されて。本当は反対側のその筋の方は間違っ、私をマフィアの事務所に持って行ったわけよ。私がバックでなにかやっているから、「君は間違っている」と。「そんなことはやっちゃだめだ」と言って、且つウン百万以上のお金を請求してきたわけです。当時着てたスーツを今日私着ているんですよ。見えますか？傷。町を引きずりまわして事務所に連れて行かれたんですよ。結局私が払った金は10万です。だって早く開放されたら私が通報して、彼らは金を取ることができませんから、私をずっと事務所に詰め込んだんです。あとは黒人と喧嘩したりだとか、シマを守るために。

人：シマっていうと……ちょっとそのあたりについて教えてもらえますか。

李：尖閣諸島と一緒にですね。中国というと、「釣魚島」といいますね。日本側で言うと「尖閣諸島」。私は外交官でもないし政治家でもないし、でもまあ自分のシマをどう守るかっていうのは、大事ですね。

人：そうですね、そこにはその筋の方も関わってくるわけですからね。あるいは警察の方とかも。かなり複雑に絡み合ってるわけですね。

李：そうですね、だから結局みんながビジネスのために共存共栄でやれば……歌舞伎町のルールはね、警察官だけが作ったんじゃないんですよ、みんなで作ったものですから。みんなを守っていけば、喧嘩はしない。みんな仲間ですから。シマの問題で言えば、中国と日本、そりゃシマの問題もあるでしょうけど、でもやっぱり仲間ですから。だから相談しあっていけば……ぶつかっては駄目ですよ。それは酔っ払いのやることです。きちんと相談すればなんとか解決できることじゃないですか。

人：話し合い、ということですね。

李：日本の領土問題のこともあるでしょう。私、10日にゴルバチョフさんに会うんですよ。彼、ノーベル平和賞取ったじゃないですか。10日に外国人記者クラブで、記者会見があるんですよ。

人：それはどちらで？

李：広島ですね。11月12日から14日まで、民間のノーベル平和賞取った人たちが何人か集まって首脳会議やるんですよ。それで10日に有楽町で記者会見があるので、ちょっと質問してこようかと思っていて。なぜかというと、私は小さいときから、そんなに学校行ってないけど、日本の領土……北方四島で書いてましたけど。私が不思議に思うのは、いままでね、中国がずっと言っていたのは北方領土は日本のものってことだけど、でも最近になってそれがなぜか急にロシアってことになっちゃったでしょう。まあそれはマスコミ、番組とか全部そういうことになっているけれど、その理由は9月にロシアの大統領と中国の胡錦濤主席が条約を作ったんですよね。お互いの領土問題を応援しましょう、と。

人：その代りお互いに経済的な結び付きを強めよう、みたいな。

李：うん、だから結構堅い話ですけどね。これは特に不思議に思っているところで。だから10日にゴルバチョフさんに質問します。「あなたはね、ノーベル平和賞を取ったからには領土問題も平和に解決したいでしょう。どう思いますか？」と。

人：そうですか…最近日本では尖閣諸島の衝突のビデオが **youtube** にアップされるということがありましたけど。李さん個人としては中国と日本がもめている今の状況についてどう思いますか？

李：そうですね、悲しいですね。やっぱり。自分は日本に 20 数年いて日本の誇りもありますし。だから向こうに帰った時は良いことしか言えないですよ。もちろん悪いことも言うけど。でも自分が行った国が良いところでなかったら、じゃあどうしてあそこにいるんだ、ってことになってしまうから。民主主義で自由で、いろんな、ね……何回も結婚しても構わないし(笑)日本ってやっぱり自由ですよ。だから日本に専念したい。でもこうなると、もし中国の大学で講演会したら卵じゃないけど靴とか投げられてしまいますよね。やっぱりね悲しいですね。尖閣問題は歴史問題ですけど、ガス田でもなんでもいろいろありますけど、でも仲間ですから、共同開発すればいいじゃないですか。北方領土でもそうだけど今となっては日本もこだわってしまっ。だから、解決できることは小さいことでもいいから少しずつすぐ解決するべきですよ。一括じゃなくて。一括だとやっぱり歴史の問題だから、どっちも譲らない。だから領土問題の関係もあるしってロシア軍と中国軍が組んで、じゃあ日本とアメリカも組むってなるとこれは戦争になりますからね。戦争になっちゃ駄目ですよ。みんなが仲間になって、少しずつ解決していく。話をする、談話が大事です。トイレでもどこでもいいから談話すればいいんですよ。

人：それはもう歌舞伎町のシマの話と完全に一緒ですよ(笑)

李：そうですね、一緒です。私たちいつも後ろで談話してるんですよ(笑)そのあと表にでて「ああもう解決だ」って。

人：もうひとつ聞きたいことがあって、日本と中国の歴史問題の根っこには南京大虐殺だとか、反日感情があるんじゃないかと思うんですが…。

李：中国人の学生って、やっぱり政治に対してすごく関心があるんですよ。私の奥さんの生まれは南京ですから。でもずっと日本にいるわけです。勉強して、政治に関心があるからこそ、日本に来るんですよ。別に敵だとは思ってない。

歴史の問題は歴史の問題、現実 is 現実。本当に勉強すればわかる。

ただね、今の中国の若者は物凄く政治への関心がある。パワーがすごい。日本に対しても少しあるけれど、国内政治への関心がとても高くなっている。

人：それはやはり民主化の方向へ？

李：そうです。たとえば劉曉波のノーベル平和賞受賞とかね。彼は現在、公の場にはなかなか出られないけれど。10 年前にもノーベル文学賞をとった中国人がいるんです。知ってます？高行健という人です。じつは 10 月 4 日劉曉波がノーベル賞をとった 1 週間前に、国

際ペンクラブの会合で、早稲田大学の大隈講堂で 30 分間講演をしていたんです。

(高氏の写真を見せる)

李：彼はノーベル賞を取っている。またさらにその 10 年前にも中国人が受賞していて、それはダライ・ラマです。彼は中国人だとは認めないと思いますが、中国の出身だという意味で。中国にいた人たちのなかから、ノーベル賞受賞者が出ているわけです。人口 12 億人ということを考えたら、少ないけどね。今年中国は改革開放が始まってから丁度 30 年です。

(雑誌『人民中国』を手に取り)

李：これは中国共産党の発行する出版物の唯一の日本語版です。ここで胡錦濤さんがシンセンを訪問しています。シンセンも経済特区になって 30 年です。経済はよく改革されてきました。しかし政治の改革はどうなっているか。いまのところよく改革されているとはいえないところがあります。しかし温家宝さんはアメリカ訪問の際には政治改革についても積極的に発言しているようです。

人：国内では報じられないのでは？

李：それはなかなか難しい。

(温家宝の訪米時の写真を見せ、黒板に「政改」)

政治改革が成功すれば、劉さんは釈放されるでしょう。彼の刑期は 11 年ですが、その間また新しいノーベル賞受賞者が現れれば、また劉さんは出られるかもしれない。まだまだかな。政治の少し堅い話をしましたが、私は政治家でも外交官でもありませんが、歌舞伎町の政治家です。(音声不明瞭) 歌舞伎町の毛沢東と言われることもあります(笑)。毛沢東と私は同じく湖南省が故郷で、私のお店には毛沢東の大きな写真を飾っています。

人：李さんは長沙の生まれですよ。

李：そうです。ここは湖南省の省都です。湖南省には大体 7800 万人の人口があります。日本の半分ほどですね。湖南という名の由来は、中国でも第一の湖といわれる洞庭湖の南に位置しているためです。北は湖北。洞庭湖と洞爺湖とは一文字違いだね。日本でも琵琶湖の南には湖南省があるんですよ(笑)。

人：知りませんでした(笑)

李：ネットで調べてみて。湖南省からは毛沢東、劉少奇など、多くの政治家や軍事家が出ています。今の国民党の馬英九大統領もお父さんの代は湖南省の出身なんです。昔から湖南には豊かで、よく勉強できる環境にあったので、文化人も多く出ています。

人：文明の開けた土地ですね。

李：まあ自分はあまり勉強はしなかったけどね（笑）だってさ、本当に勉強してないんだよ！小学校卒業しただけで、13歳からバレエをやってたんだから勉強してないよね。湖南省にはもともと経済があって、改革開放は少し遅かったけど、湖南省長沙からシンセンに逃げてきて、またシンセンから日本に逃げてきたんですよ。

人：まさに自由を求めて、ですよ。

李：もし今度、いまの尖閣問題か何かで日本と中国で戦争が起きたら、私はどこに逃げようか、ちょっと悩んでしまいますがね。

人：まずはそうならないようにしないとイケませんね・・・尖閣諸島の話もなかなか難しいものがありますよね。

李：暗い話ばかりいっててもしょうがないから、少し明るい話を。昨日のニュースですが、リーマンショック以来苦戦していたトヨタ自動車が、9月の中間決算を15パーセント伸ばして、業績を黒字転換したそうです。好業績の要因としては、もちろんエコカーの好評もあります。大きい部分は中国市場が拡大していることです。いま中国でうまく仕事をすれば、儲かるし、みんなハッピーになりますよ。トヨタだけではなくて、三菱もうまくやっています。三菱は今度湖南省で大きな工場を作ります。当局の許可も降りて。ニッサンも同じように動いています。どんどん日本のブランドも世界も中国も発展していけば、とてもいいことじゃないですか。やっぱり日中関係もいいニュースあるじゃないですか。こんな毎日毎日黒い服で（着用のスーツを指しながら）暗い顔していなくたっていいんですよ。悪いこともあるけども、よいことの方へ向かって行かないとだめですよ。

人：こう見ていくと日中は既に運命共同体になっていますよね。

李：そう。まあ歌舞伎町は暗いんだけど（笑）、町のネオンは明るい。ネオンの強い灯りを見てみれば、何でも出来ちゃう。だからお互いよく関わりあうこと。ビジネスだってそうです。先月中国人観光客の数が90パーセントも落ち込んでいるんですよ。もっとももっと増えて、一回でも観光ツアーにでも参加してもらって、日本のことを勉強してもらえればいいんですよ。寿司を食べて、買い物をして、日本の良いところをちゃんと見せれば、お互い一方的にいがみ合うようなことも減るんじゃないでしょうか。電車に乗るのに並んだり、信号を守ったり、日本人は普通のこと当たり前のことも、中国ではその当たり前の

ことがなかなかできていないんです。このことはいろんな所でずっと話してきたんですが、これをちゃんと聞いてくれる人は少ないようで、大変なことですよ。とにかく日本と中国でよいニュースを作るように頑張りましょう。皆さんもね。

人：頑張ります。今のお話と反対に、李さんが長年日本で暮らしていらして、ここは日本人のよくないところと感じられる点について教えていただきたいのですが。例えば中国で日本の話をする場合でどのようにお話されるのかとか。

李：いっぱいあります。(物販ブースを指差しながら) それはあちらの机で売っている本に沢山書きました。

人：(さりげない宣伝に爆笑)

李：阪急コミュニケーションズから出した本に全部書いてあります。辛口でね。日本に対して、日本人に対して、李小牧なりに率直に書きました。

人：ちらっと教えてもらえませんか？

李：OKOK。例えば何でもランキングづけしたがることとか、毎日同じようなテレビ番組の内容とかですね。みんなランキングにこだわるから個性が無くなっちゃう。

人：人の真似ばかりになっちゃう。

李：みんな真似している。これが1位だから、と行って行列をつくる。行列のできることはいいけれども、自分に合っているかどうかのほうが本当は大事なことでしょう。私はモード学園で勉強していたこともあってファッションにとっても興味を持っているのですが、日本では全部が流行に左右されてしまうみたい。例えば浜崎あゆみが出てくれば、彼女と同じ格好がいいとって真似てみるとかね。好き嫌いもあるからそれでもいいのかもしれないけど、みんな街が一緒になっちゃったら文化終わっちゃうんじゃないかと思って、個性がなくなっちゃうから。真似ばかりですよ。

人：それこそ自由で民主主義の国なのにみんな一緒になっちゃうのは・・・

李：もっと個性を発揮すれば、もっと世界に、海外に発信できると思います。

人：中国の人ってアクが強いというか、みんな個性がありすぎちゃうというようなこと

を・・・

李：・・・ありすぎちゃう。そんなところもあるけど、ただね、向こうはまだ生活レベルが違うから、最近中国は経済盛り上がってすごいねーとか、日本に来た中国人が百万、二百万使って一みたいなの、あれはほんの一部ですよ。中国人は多いですから、お金ある人が多く見えたりするのですが、お金ない人もいっぱいいます。それもそうだし、洋服を買えるか買えないかというところもあるし。まあ30年前はみんな同じだったけどね、人民服、開放軍服。最近変わってきましたけど、やっぱりまだまだ。分かると思いますが、水飲めないところもあるし、お米が食べられないところもある。若者、子供たちが学校に行けない人もいっぱいいます。そういう意味で中国は大国ではないです。経済大国では一切無いです。まだまだ場所が広い、人口が多い、経済大国じゃないから、だから日本の皆さんはびびらなくなっているんです。ニュースでみれば、きれい、オリンピックやった、なんでもOK!・・・じゃないんですよ。ハードはあるけど、ソフトは全然足りないです。

人：どちらかという政治のほうが目立っている感じですよ。

李：そうですね、実際にね、日本より本当に遅れています。だからこういっちゃアレだけど、国はお金持っている。本当に国民たちがお金を持っているかどうかは疑問ですね。私のおじいさん、63歳でなくなったんですが、これもコラムに書いたんですが、彼は貧しくて63歳まで朝に新聞配達をやってました。そこで倒れてなくなっちゃったんです。普通の病院なんか行けないです。検査も何もやってないもの。

人：日本だと当たり前のことが、向こうではそうではない、と。

李：定年になって年金貰って病院いくのは普通でしょ？彼の会社は倒産しちゃったから、年金はないです。だから新聞配達やって、冬の日になくなったんです。普通は（聞き取り不能）そういうのありますね。

人：それってやっぱり政府がカネ持ってるっておっしゃいましたが、民主的にやれば解決するものなのではないでしょうか。

李：ですよ。だから鄧小平さんも言ったけど、歴史の問題、次世代の頭のいい人が解決できると。今は江沢民でしょ、胡錦濤でしょ、次は習近平さん、たぶん彼は出来るんじゃないですか。期待しています。民主主義は世界と「普世価値(普遍的価値)」にならないといけないんですよ。(黒板に書く)

人：よく中国は13億人もいるから、選挙だ民主主義だっていうのがなかなかうまく収まらないんだってという意見もあると思うのですが、それについてはどのように思われますか？

李：そうですね。ずっとやっているんだけど、当時のロシアとかに対して中国の人口がずっと多いから、急に変わるとみんなばらばらになってしまう。この反日運動の写真を見ると分かるようにこういう政治運動に加わっているのは大半が若者です。

(スライド、『亜洲週刊』の表紙、反日デモをする中国青年と反中デモをする日本中高年) 中国の若者の2世代は大学を出ても仕事があるかわからない。だから反日デモにも若者の不満のガス抜きの要素があるのは確かです。これは申し訳ない。ところで写真の下段を見てください。場所は渋谷あたりでしょうか、デモ参加者は大人ばかりに見えます。

人：というかオジサンオバサンばかりですよ。

李：そう。年配ばかりに見えますね。対照的に上段の中国のデモは若者一色。でもこれには反日運動としての側面だけではなく、政治の独裁制、報道や表現の規制、あるいは失業や家賃の高騰、といった現代中国における多くの問題への反発という側面があるのです。中国政府としては、反日運動という形であるならば、とこれを黙認している面も否認ませません。日本政府も同じようなことをしますが、国民の目を問題から反らそうとしているのでしょうか。

人：どこの政治家も都合のいいことをいいますよね。

李：最近の日本では、例えば普天間基地の問題があった。でも今度の尖閣諸島の問題がポーンと出てきたら、もうみんな普天間のこと忘れちゃったじゃない。覚えてる？

人：みんな忘れてるかも。2010年の大ニュースだったのに。

李：まあこういう手を使うんだよね。歌舞伎町のお仕事でも、同じように頭を使うんだけど(笑)。

人：なかなかハードな世界です。ところで李さんは、将来の中国にはどのような世界であって欲しいと考えているのでしょうか。李さんの、理想の中国というのを教えてくださいませんか。

李：自分で枠は作ってはいませんが、私は人生の半分づつを中国と日本とで暮らしてきたので、日本のいいところを中国へ持っていき、伝えていく役割ができればいいなと考えて



います。中国共産党の上層部にも日本のことを学んでいる人が大勢居ます。日本、アメリカ、世界と、まわりからいいものをとってくる。

人：コピーしちゃう。

李：いや、コピーするだけではなく実践的に使っていく。例えば日本語。日本語のなかには漢字あり、ひらがなあり、英語・フランス語・イタリア語もある。なんでも使ってしまう。いま中国は漢字しか使っていない。これを考えると、日本の歴史は中国よりも浅いけれど、日本の文化は深く、幅が広いんです。だから日本は世界の大国になれたんですよ。自国の文化を大切にしながらも、中国の文化も西洋の文化も受け入れて。いまの中国は昔からの古い漢字しか使っていませんが、5000年もの長さがあるとはいえ、自国の歴史だけで自慢してはだめです。ところで漢字の中には日本から中国へ逆輸入されてよく使われているものが多くあります。

人：明治維新からですね。

李：そうです。もっとももっとこういうことが広がって欲しいと思います。そういえば、私の「歌舞伎町案内人」の案内という言葉は中国と日本では意味が違います。日本語では案内人はガイドさんと言い換えられますが、中国語では「中にある人間」という意味になってしまう。だから中国で本を出したときには、歌舞伎町案内人という言葉そのまま使ってくれと私は出版社に頼み込んだんですよ。どうしても、ってお願いして。もし、将来中国の辞書に案内人という言葉が載ったとしたら、それは私が最初です（笑）

人：是非そうなってほしいです。

李：だからそういう意味でね、輸出して良い待遇とかをもらったりするのは私も一緒。もちろん日本もやらなくちゃいけないことはいっぱいあるよ。でも中国は特に人口多いからもっとやらなくちゃいけない。

人：そうですよね。ある意味日本の良さとか日本文化の強みは色々なものを合わせて自分なりに改造出来ちゃうっていうとこだと思うんですけど、最近の日本人達ってあんまりその良いところがうすれてきちゃってると思うんですよ。どうですかね。

李：まあ戦後から日本の先輩達がよく頑張ってるせいだったり（聞き取り不可）実績ある人達だね。どんなとことでもね。だからただ「ネグロフェージュ？」だけでなくただ「南京」のことだけでなく、もっと個性をだしてもっともっとがんばってもらいたい。今日の

朝からの学園祭みたいにこんなに素晴らしいものがいっぱいあるってことはもっとそういうことをやればいいんですよ。まあ反中のことはやらなくていいから、もっと若者が並んで政治に関心があって投票行って、この党が駄目ならこっち行く、どっちの党も駄目なら自分でつくればいいじゃないですか、自由なんだから。

人：内向き内向きってよく日本人は言われるんですよ。

李：若い世代にもとても期待してますし、自分はそんなに若くないから。

人：いえいえ、とても若く見えますよ。

李：一応昭和35年生まれです。まあ申し訳ないけど結婚歴は6回です。同じ人が3回。4・5・6回目が一緒です。人数としては4人です。今現在子供がいますから、3歳の可愛い女の子。まだ離婚のことは考えてません。もう考えません。もう考えられない。

人：考えちゃいけない…

李：考えちゃいけないね。最近家族もいないし。ホント今日の喋りがねちょっと辛かったけど、1週間前にねインプラント入ったんですよ、口に。まだこの辺に隙間がある。なぜか酔っ払いが騒いで前歯一本取れちゃったんですよ。そういう事件はよくあるけど、まあ歳取ったなってつくづく感じますね。

映像がとんだ模様

李：きれいにまとめて下さったんで、こちら辺でお終いというか、今日は本当にありがとうございました。

拍手

質疑応答

Aさん：お話ありがとうございました。最近、尖閣諸島の問題で中国で反日デモとかよく行われてますが、さっきの写真でもあった様に、日本の若者はちょっと政治不信からか関心が薄いためか、日本ではあまりそういった暴動は起きてこないんですけども、再度中国との意識の違いというところは、日本と中国の両方を知っている李さんはどのような違いがあるんだろうと、考えていらっしゃいますか？

李：やっぱりね中国の学生さんたちは勉強すごいんですよ。試験に対して頑張るのがね。その点では日本人の学生よりもすごい。競争率が高いですから。限られた数の大学しかないんで競争が激しい、だから余計勉強する、いろんな情報をとる。日本は豊かだけど少子高齢化とかの問題で学校がどんどん潰れていっているじゃないですか。中国は逆。だからそういう意味で日本の若者にはもっとがんばってもらいたい。もちろん早稲田大学の学生は頑張ってると思いますよ、ここに入ったから。早稲田大学入ってない方たちもね、もっと頑張ってもらいたいな。あと日本と中国の教育制度が違うから。勿論愛国心の制度には賛成ですよ、全てではないが。でも制度でいえば中国に学んだ方がいいかなと思う。教育制度が違えば、育っていく人間も違うから。だから中国人はどこ行っても生活できるんですよ。私みたいに。歌舞伎町にいても、アメリカでもチャイナタウンつくって、どこでも中国人いるから、だから、そこはやっぱり独立精神あるいは生活能力高いと思います。たとえば日本の若者が外に留学しに行き、新車買ってフィジー行って香港でやって帰って来るんですよ。うちの前の奥さんも日本人で2年間オーストラリアに留学したんですよ。戻ってきたらあんまり英語喋れない、遊んでるだけです。そういうことで。

Bさん：私、パンダがすごい好きなんですけど、日本ではパンダは何でも可愛くすれば売れるんですけど、中国の方にとってのパンダのイメージとかあとは裏事情とか、もしあるなら聞いてみたいなと思ひまして。

李：パンダは中国の国宝として政府は大事にしています。中国の国宝といえば二つしかない。一つはパンダ。もう一つは鄧小平。人間ですけどね。同じ四川省出身だから。パンダは国宝だと思ってるけど国民全員が日本人みたく可愛がってるとはちょっと違うんですよ。自分の生活も出来ないのに何で動物に興味あるのみたいなことになっちゃうから。お金持ちの人はね、支援とかね、「ああ、これは大変な動物だからもっと守っていかなくちゃいけない」って、お金ある人は関心がある。お金ない人は、自分の生活も出来ないのに何でパンダに関心があるのかということです。

Cさん：貴重なお話ありがとうございました。私、歌舞伎町が大好きなんですけど、よくです。石原都知事の制度で歌舞伎町のセーラーズ産業が衰退したとか、昔はもっと楽しい街だったっていう話を聞くんですけど、李さん自身はどのように思われますか。また、昔の歌舞伎町の姿なども少しお話頂ければなと思ひます。

李：いい質問ですね。やっぱりそこら辺はね私がこの2、3年間ずっと戦ってきたことですね。歌舞伎町はもともとまあ昭和60年後オトナの街だったんで、オトナの街にずっとなっていてもらいたいし、さっきと同じ事繰り返しますが、警察は摘発やる、日本人も外人もやる、それすごい力入れてるんですよ。ただ管理の力は何にも入れてないんですよ。

だから一方的に摘発してその後は空車だとか空いてるお店いっぱいあって、今はね歌舞伎町案内人として恥ずかしい。中国人来てもどこに案内すればいいか分からない、お店なくなっちゃったから。恥ずかしいんです。だからストリップ3つだけで、あとは何があるか分からない。だからもっと合法的に許可をあけて管理してもっと繁盛になってもらって、風俗でもいいです！風俗もう存在してますから、実際。あくまでも合理的に物事運ぶからあとは管理すればね、もっと皆ね若者世代でもオトナ世代でも皆飲みに来れば、遊べば、ストレス発散・ガス抜きで明日また元気に仕事できるからね。そういう街になってもらいたい。私は振興組合での唯一の外国人として参加してますけど、常にそういうことやる。私は帰化してませんが、もしよ、帰化したら、日本人になって立候補する。私は国会でね「風俗24時間」手配しますよ。もしね。

(一同笑い)

人：是非お願いします。

Dさん：歌舞伎町のことについてもうちょっとお聞きしたいんですけど、私の様な素人がですね歌舞伎町に風俗のお店を出すってことは可能ですか？例えばヤクザとかともコネクションは全くないと。何にも歌舞伎町の人達とはコネクションがないって時にキャバクラですとかそういう風俗のお店を出すのは…

李：可能です。最初からねそういう筋の方達と繋がらない方がいい。合法的なお店として許可が下りれば、新宿区役所に申請して保健省の申請もらえば、全然可能です。キャバクラね、朝キャバクラもあるし、朝キャバね、サラリーマンがやってる。ホストクラブもあるし。でも合法的に深夜1時を過ぎたらやらない方がいい。まっ、多少1時間延ばしてもいいけど、電気消してね、1時間であれば。でも朝までやってちゃダメですよ。やっぱり合法的なものは何でもOKです。で、逆に、ヤクザ来た時は許可書見せればもう来ないと思います。というか大体ね、ヤクザ来るのは合法なお店じゃないから来るんですよ。

人：弱みに付け込む…

李：弱みに付け込んで通報出来ないから。通報できるうちの「湖南菜館」誰も来ないですよ。用心棒そんなに来ないですよ。合法のお店なら何でもです。何でも出来るよ。

Eさん：貴重なお話ありがとうございます。多分お立場的に言いにくいとは思いますが、尖閣のビデオが流れましたよね、あれ見て多分「わざとぶつかってきた」と思えるストーリーではあるとは思いますが、中国の方は「編集した」とか云う様な意見もあるという様に聞きますが、李さんから見て如何ですか。明らかに悪いのは中国政府の方ではないかと私は思うんですけど。

李：誰が編集したか私はその情報掴んでないんで分かりません。ただ、中国テレビでチラッと見たのよ、その後消しちゃったけど、今は全部消えてます。それは中国人としてやっぱり見たくないんですよ、編集したかどうか分かりませんが。だって日本の船にぶつかってくるでしょ。中国人としては見たくない。もし中国ホントに編集してたら、日本の船が中国の船にぶつかってるの見たいです。政府としても、中国政府としては出したくないです、あの映像は。だから管総理が言ってることはその通りだと思いますよ。国民に公開しない事は、日本の国民の反中が進展して大変な事になっちゃうから、APECもあるから、首脳会談もあるから出したくないんですよ。勿論、日本人としては多分出してもらいたい。中国人としては見たくないし、むしろ本当に中国人が編集してたらそういうダメじゃないと思います。昨日の午後1時過ぎだから中国のインターネットとテレビ一切放送しない様になってるんです。

Eさん：中国のネットには全然流れてない…？例えば中国は日本よりもさらにネット社会が発達していると聞いていますので、一旦映像流れちゃうと中国の若者が見る事っていう事は全然可能になってくるかと思うんですけど。

李：いや、可能ですけど、中国のインターネット警察すごいんですから。国民もすごいけど警察もつとすごい。もう全部シャットアウトします。ノーベル賞受賞者の彼の名前も全部消えてます。

Eさん：ということは、中国はやっぱり尖閣の問題に関しては中国が正しくて日本が良くないという様な主義ということに…。

李：勿論、中国政府としては、さっき見せた中国共産党の雑誌に書いてあるんですけどね、中国共産党の立場としては、尖閣は歴史的には中国のものだと、で、日本側は100年位管理してると。じゃあ100年前は、戦前は中国のもので、アメリカが沖縄と一緒に管理・行政で渡したと。領権は渡してないと。権利は渡してないけど、管理して下さいと。これは私が読んだ中国側の資料なんですけど、皆さん怒らないでね、日本は100年管理したからその費用を中国が払えば、それで得たお金で日本は北方領土を買えばいいと。これ私書いてませんからね。その前は誰のものだとか、中国は中国の言い方もあるし、日本も日本である。北方領土も同じ。戦前は日本のだったね。でも負けちゃったからロシア管理した。繋がらないけど、どっちの問題も同じ考え方で見ればどうすれば…うん。ごめんなさいね、ちゃんと答えられなくて。

人：ある種、お金で政治問題も解決するっていう…。

李：うん、やっぱり現実的に経済大事だからね。お金で解決できる事は解決して、出来なかったら少しずつ談話して、さっきも言った通りでトイレでも廊下でも話して下さい。

人：それ位ムキになる必要があるって事ですよ。

Fさん： 貴重なお話楽しかったです。本とか読ませて頂いて、結論を打ち出してですね、ちゃんとやってる人なんだなという印象を抱きまして、あの中でやってるっていうのはすごいなと思いました。今日とかお話をお伺いすると、中国は領土問題、職の問題、経済格差など色々社会問題を抱えてると思うんですけど、韓国の大統領さんはもともと日本にいらっやって、それから戻られて政治家として大成功されていたりして、李先生も中国に戻られて政治活動などは…

李：大統領になると。

Fさん：表の公務などですね、日中友好を支えられるのではないかと思います。

李：この質問は嬉しいけど、私も年齢的に年齢だし、もっともっと日本の良い事勉強したいし、ちょっと立場的なところからは私は多分ずっと中国にいた方がいいなと思います。結局中国人は今、在日・来日70万人、不法滞在含めて100万人います。本当の発言の場はあるかどうか。本当に中国人の言ってること日本人が聞いているかどうか。もうほんのわずか私も含めて何人しかいないと思います。(一部聞き取り不可) 中国に伝えたい事もちろんいっぱいありますよ。日本で10万冊出して、中国で本出すのはすごく難しいです。一番最初の『歌舞伎町案内人』は3年かかってやっと中国で出されたんで、私は変に見られるなと思う。自称は「ヘンリ」「変な李」「変な中国人」ですからね。変李はずっと日本で活躍すればいいと思います。勿論、中国で良い話あれば考えますが、来ないと思います。やっぱり私歌舞伎町でずっと政治家やってるから多分ダメだと思いますよ。この間初めて20年以来、中国共産党の記者と飲んだり、仲良くさせもらってるだけで、もう十分感謝してて、むこうでもまた中国にも本出るんで、私が出来ること少しずつやって、学生の前でも色んなマスコミでも取材くれば自分の言いたいこと言える様にする。中国の主席になってもどうしようもないと思いますよ。

人：今日は興味深い話をたくさん聞かせて頂いて本当にありがとうございます。歌舞伎町っていう地図でいったら小っちゃーいエリアからこの世界のことをよく見ていらっやる李先生は本当にすごいなと思いました。

李：（最後に一言）今日はこの大きい教室で、人はそんなにたくさんじゃないけど、でも温かくて、最後にいろんな質問してもらって、ホント100万人入った位の気持ちです。中国のことや歌舞伎町のことについて何か私に直接聞いてくれればいいし、いつでも問い合わせたい。でね少しずつやっぱり改善していくこと大事で、歌舞伎町もそう、日本もそう、中国もそう、世界もそう。だから皆さんの力合わせてどこの場所でもいいから、少しずつやっていけば、間違いなく経済良くなる、皆ハッピーになる。今日は本当に休み中、ありがとうございました。

一同拍手